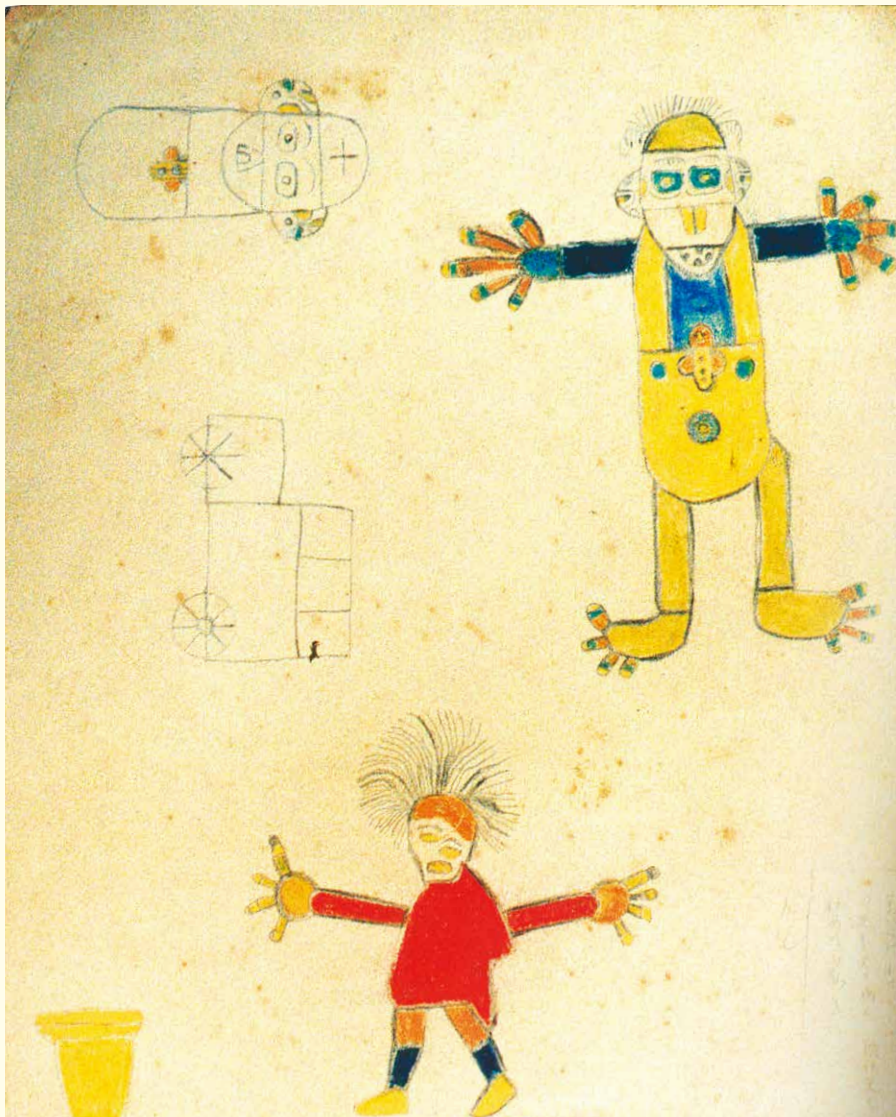


# 穂 穂

おほしたつる君がちからにひつじぼの  
いねもゆたかにうちなびきつ  
佐藤仁之助先生歌書



ひと〈クレヨン〉

「特異児童作品集」 奇跡の子より 昭和十五年（1940）  
早大心理学教室助教授 戸川行男・著  
学園の庭の隅で黙々として自分の着物を破つては薬や針金で縫う。木片にくぎを打ち付けて玩具用のようなものをこしらえる。これだけが沼君の技能であつた。聴啞児で耳は聞こえるが口は聞けない。検査してみるとこの子には反響動作があり蠟屈症がある。反響動作というのは、こちらで急に両手を上げるとそれを見て反響的に自分も両手を上げる。別にそうせよと命じたわけではないのだが、目の前でやる検査官の動作を山彦のように反復するのである。蠟屈症というのは例えば手を取つて持ち上げて離すと、これもそうせよと命じた訳でもないのに、いつまでもそのままの姿勢でいる。首を斜めに曲げてやるといつまでも曲げたままにしている。蠟のように自由に屈折し且つそのままにしていることからこの名が出ている。

ひと〈クレヨン〉 昭和十三年作（1938）

この文章から推測すると右上の人物が検査官で下は沼君ではないか。

八幡学園 理事 松岡一衛

## Index

- 法人挨拶 『踏むな、育てよ、水そそげ』～法人近況ご報告～
- 福祉型障害児入所施設 八幡学園 生活寮の様子
- こども発達支援センターやわた 子どもたちの『できた!』『やってみたい!』を大切に
- 放課後等デイサービスひまわり チャレンジできる環境をめざして
- 法人全体研修 講演会報告
- 整備報告



## 『踏むな、育てよ、水そそげ』 ～法人近況ご報告～

社会福祉法人春濤会 理事長 久保寺 玲



地球温暖化の影響もあるのでしょうか、令和7年も盛夏の時期は前年以上の連日の猛暑の日々が続きました。ようやく熱中症警戒アラート発令がなくなったかと思っている内に、短い秋が足早に通り過ぎ、紅葉狩りをゆっくり楽しむゆとりもなく冬が到来という慌たしさでした。そんな中、暑さ寒さに負けず、元気に園庭やホールなどで歓声をあげて遊び回る園児や通所の子ども達の姿に、職員も元気づけられています。

各県の山間部等では、今年は熊の出没による被害が相次ぎ、連日の報道がなされていました。冬眠前に里に降りてくる熊達は、えさとなる果実の凶作も一因であるとか…。被害に遭われた方々、生活を脅かされている方々には、心からお見舞い申し上げます。

さて、令和7年度も残り数ヶ月の時期となりました。法人及び各施設の年度計画に基づき、着実に歩みを進めていることをご報告致します。一番の

大きな課題である経営の安定は、まだまだ道半ばですが、これまでの財務改善の成果により、どうか収支安定に向かいつつあります。が、今後も利用率向上や加算獲得などの不断の努力が必要です。園舎内外設備更新等の経年劣化に伴う修繕については、ここ数年で課題となっている箇所の多くを計画的に整備してきましたが、園児達の生活寮小規模化計画に伴う改修リフォームと園舎壁改修及び管理棟屋上防水改修、通所棟の空調整備等、高額な整備費用を伴う箇所が残っています。皆様の温かいご援助を賜れば幸いです。

憲政史上初の女性総理が就任しましたが、令和8年も年明けから福祉の灯火が絶えることなく輝き続ける年であって欲しいものです。これからも法人職員一同、学園で暮らす子ども達と通所事業に通う地域の子供達、その子らしく伸び伸びと成長していけるよう、力を合わせてまいります。どうか、今後とも変わらぬご支援ご協力をお願いします。

## 八幡学園 ～生活寮の様子～

### 聖愛寮 初めての引越し

八幡学園聖愛寮 寮長 毛利 史

平成19年に八幡学園に女の子の寮ができて、早いもので18年が経ちました。子どもで言ったら成人かぁ、と考えると今まで卒園してきた子たちを思い出して感慨深い思いにもなります。

今の聖愛寮は、小学2年生から高校3年生のお子さんが10名でワイワイとにぎやかに暮らしています。

今年度を迎えるにあたり、今まで暮らしていた場所から引っ越すことに！

今までいた場所から何もイメージがつかない場所へ初めて引っ越す事を、デリケートな女の子たちに、いつ、どうやって伝えるかスタッフで頭を悩ませました・・・

そして引っ越しの一ヶ月前、小学生のお子さんと中高生のお子さんに分かれて説明をしました。「ひっこしー！」と喜ぶ子もいれば「いやだ！行かない！」と大泣きする子と様々…気持ちの整理をしてもらうために何度も話し、引っ越すことに納得してもらいました。

そして当日、お子さんたちが通学中にドタバタと引っ越しをする中で大きな食器棚や冷蔵庫などの家具をどんどん運んでいく職員の頼もしいこと！「女子寮スタッフは八幡学園で一番男気がある！」と確信した日にもなりました。

そして、帰ってきたお子さん達は興味津々で寮の中や自分の部屋を一通り確認して、ようやく安心した表情を見せてくれました。

それから半年、お子さんもスタッフもだいぶ新しい環境に慣れ、今年の夏休みには女子寮恒例の夏祭りも開催でき、みんなの生き活きた表情をたくさん見ることが出来ました。

これからも子ども達と対話しながら、新しい場所での生活や思い出と一緒に作っていきたいと思っています。



### 子どもとたち一緒に笑顔で過ごすために

八幡学園支援部 主任

聖光寮 寮長 浅田いずみ

聖光寮では、児童期青年期にある子ども達がこの時期に楽しめる経験、この時期だから楽しめる経験をさせてあげたいという思いから様々な趣向を凝らして余暇に取り組んでいます。

一つは、季節の行事ごとの装飾にも趣向を凝らしています。子ども達が作った装飾物を月ごとに飾っています。また、一人ひとりの誕生日は、担当職員が中心になって、1年の中の1日を特別な1日として、本人が喜ぶような企画を考えます。大好きなトランポリンで沢山遊んだ誕生日、コストコの大きなケーキでお祝いした誕生日、ホテルのビュッフェでお祝いした誕生日、他にもいろいろな形でお祝いをしました。

また誕生日に限らず、毎月頂いているお小遣いを使って、外出することも楽しみの一つです。好きな電車を乗り継いでショッピングを楽しんだり、夏休みに品川の水族館で水中ショーを観たり、高速を飛ばして横浜のあんぱんまんミュージアムで遊んだりしました。職員と手をつないでパン屋さんに行き、昼食のパンを買うことやスーパーで夕食を買うこと、コンビニでちょっと豪華なスイーツを買いに出ることもあります。

何気ない喜びも大きな喜びも私たち職員は、子ども達からたくさんの笑顔をもらい、次はどんなことで喜んでもらえるのかワクワクしながら考えています。



## 子どもたちの「できた!」「やってみたい!」を大切に

児童発達支援センター / こども発達支援センターやわた  
主任 戸井原 由依

長かった夏が終わり、一瞬で過ぎ去った秋を思い返す間もないくらい忙しい日々の中、冬が深まってまいりました。こども発達支援センターやわたの『つくしんぼ教室』に通っているお子さん達は、寒さに負けず毎日元気に過ごしています。

つくしんぼ教室では、日替わりでプログラムを組み合わせ、色々な活動に取り組んでいます。夏には、中庭にビニールプールを出して水遊びをしました。強い日差しに負けないくらいの眩しい笑顔で、全身で水の感覚を楽しむお子さんが多かったです。また、ひんやりとした感触や、感触が変化することを楽しめるようにと、寒天遊びや片栗粉遊びを室内で行いました。触ったり捏ねたりして触覚で楽しむだけではなく、色や形状が変わる様子を見て楽しんだり、一人ひとり好きな遊び方が違うのも個性が出ていました。



当センター自慢の広いホールでは、ダイナミックに身体を動かすプログラムを実施しています。いくつかの遊具を組み合わせ配置し、周回して体を動かすサーキット運動は、日替わりでコースを変えて飽きないように工夫しています。運動が得意な子もいれば、運動発達がのんびりの子もいるので、難易度を変えるのがとても難しいですが、手助けの度合いやゴールをお子さん達に合わせて変えることで、それぞれが「できた!」と実感出来るようにしています。また、サーキット運動に十分取り組んだ後は、みんなで追いかっこをして遊ぶことが多いです。衝突の危険がないよう一方通行のルールなので、ほぼマラソン大会という状態ですが、鬼役のスタッフがお



子さんを捕まえてくすぐり遊びをすると、わざと捕まろうとする可愛い姿も見られます。お子さんもスタッフも汗だくになりながら、毎日思いきり身体を動かすようにしています。



ホールでは、他にも天井からブランコを吊り下げて揺れを楽しんだり、トランポリンで高く跳んだり、ダイナミックに身体を動かして遊んでいます。お子さん達がチャレンジ精神を持って毎日のプログラムに取り組めるよう、スタッフは毎日試行錯誤をしています。特に、運動が得意なお子さん達のちょうど良いチャレンジとなる遊具が少ないので、現在ボルダリングの設置を検討しています。「どうやったらもっと高くまで登れるかな」「今日は前回よりも高く登れたよ」と目をキラキラさせて挑戦するお子さん達の顔が目に残ります。

これらの遊具や教材は、つくしんぼ教室のお子さんだけでなく、地域のお子さんにもご利用いただいています。地域の未就学のお子さんご家族を対象に実施している『おもちゃ図書館』では、ホールや教室でのびのび遊んでもらったり、パネルシアターや制作等のお楽しみプログラムを行ったりしています。年に5回開催していて、来場者はどんどん増えています。その際には地域の方からもご寄付を募り、ボルダリング設置や他の遊具の充実に向けて動いています。つくしんぼ教室や地域のお子さんのために、ぜひ皆様からお力添えをいただきたいと思います。ご協力のほど、よろしくお願いいたします!



## チャレンジできる環境を目指して

放課後等デイサービスひまわり  
児童発達支援管理責任者 三島 順子

ひまわりでは放課後の「遊び」を土台としながら、お子さんへ発達支援を行っています。子ども達にとって、ほっと安心できる居場所となり、『また明日も遊びに来たいな!』と思ってもらえるような事業所を目指しながら、日々支援をしています。

夏から、新たな集団プログラムの1つとして、「運動チャレンジ」の時間を設けています。「運動チャレンジ」では、手押し車や2人1組のボール運び、綱引きといった遊びを交えた運動に取り組む中で、心身の発達を促すことを狙いとしています。例えば手押し車では、『腕で自分の身体を支えること』『体幹を鍛えること』『上手くいかなくても、自分の気持ちを調整すること』など、取り組む内容は同じでも、目的は1人1人に合わせて個別に設定しています。題材は1つでありながら、色々な意味合いを持たせられる面白い活動となっています。

そんなある日の「運動チャレンジ」で、ボール当てをみんなで行っていた時の出来事です。道具を扱って身体を動かすことが苦手なA君は、活動が始まると気が乗らない表情でじっと椅子に座っていました。普段は苦手な活動に対して「僕はやらない」と言うことが多いため、今回も取り組まずに終わってしまうかなと思いながら様子を見ていました。A君の順番が来て名前を呼ばれると、下を向いていたA君から、意外にも「やるよ」との返事。少し緊張した表情でボールを手に持ち投げてみると…見事に当てることができました。成功したAくんは安心した表情を浮かべており、スタッフから褒められると、はにかみながらも嬉しそうな笑顔を見せてくれました。

いつもならやりたくない活動でも、どうしてA君は「やってみよう」と思ったのか。そこには、ひまわりならではの『集団の力』があるように思いました。A君の様子から、「友達が頑張ってい

るから、自分も挑戦してみたい」という気持ちの芽生えが感じられたのです。

集団で行う活動だからこそ、頑張って不安を乗り越えられたA君。子どものチャレンジは、緊張や“型にはまった環境”の中では生まれません。安心できる居場所、信頼できる友達や大人、いろんな余暇の選択肢…といった環境が整っていることが大切です。この場面は、私たちにとっても嬉しい瞬間であり、集団プログラムの意味合いを再認識する機会にもなりました。ひまわりの強みを活かした活動を通して、子ども達が「不安だったけど、やって良かった」「また次もやってみよう」「自分ならできる」という経験を育んでいけるよう、これからも邁進していきます。



←ボール投げに挑戦するA君





## 法人全体研修 講演会報告

**講師** 松岡一衛氏（社会福祉法人春濤会 理事・「八幡学園」山下清展事業委員会代表）  
**演題**「何でもやってみよう」

### 青年団活動から始まった学び

9月11日、八幡学園多目的ホールにて令和7年度法人全体研修を開催しました。当日は、各事業所および法人事務局から約50名の職員が参加しました。講師は、長年にわたり物心両面で法人を支えてくださっている理事・松岡一衛氏です。

松岡氏は、「山下清展」や「山下清とその仲間たちの作品展」を全国で主催し、文化活動や社会運動に尽力してこられました。今回の講演では、戦後の青年団活動から歩みを始めたご自身の活動について、貴重な映像とともに紹介されました。

20代の青年だった松岡氏は、仲間との討論や学びの場を通じて大きな刺激を受け、「文化をつくる会」を創設。大学教授を招き「市民教養大学」を立ち上げるなど、新しい学びと仲間づくりに挑戦されました。「ディスカッションは今では古臭いと言われるかもしれないが、当時は何より楽しい時間だった」と語られる言葉からは、青年たちの情熱と息づく希望が伝わってきました。



### 小田 実・岡本 太郎との出会い

講演では、理事に大きな影響を与えた3人として、作家で政治活動家の小田実氏、八幡学園2代目園長・久保寺光久氏、芸術家の岡本太郎氏との交流も紹介されました。

歴史に名を刻む人物との出会いは驚きに満ちていましたが、何より印象的だったのは、自ら話を聞きに行き、学びを深める松岡氏の姿勢です。小田氏や岡本氏を清水市に招き、講演会や展覧会を開催するなど、得た感動や学びを地域社会へ広げようとする強い信念と実践には深い敬意を覚えました。

### 地域に根ざした文化と福祉の実践

「文化をつくる会」の社会活動として取り組まれた、盲人用タイプライター購入のための街頭募金や、児童養護施設への物資寄付なども紹介されました。いずれの活動も「何でもやってみよう」という信念のもと、多くの仲間と力を合わせて成し遂げられたものです。

### 「何でもやってみよう」の精神

松岡氏は、「活動や運動は、たとえ結果が小さくとも一歩を踏み出すことが大切。誰かが始めなければ何も変わらない」と語られました。挑戦を重ねてこられたその歩みには、福祉に携わる私たちが学ぶべき示唆が数多くありました。

### 職員が受け取った学び

参加者からは、「小さな一歩から始める勇気が必要だと気づかされた」「人と人とのつながりを楽しむことが、子どもたちへの支援にも通じると思った」といった感想が寄せられました。

今回の研修は、私たち職員一人ひとりに、日々の実践の中で小さな一歩を踏み出し続ける大切さを改めて刻む機会となりました。



## 整備報告

令和6年度に法人の施設・事業所において以下の整備事業を行いましたので報告します。  
 なお、事業の実施に当たり寄附・補助をいただいた保護者等関係者の方、中山馬主協会様、地域の故人の方には心よりお礼申し上げます。

事業名	時期	整備金額	備 考
園庭シーソー修理	5月	790,790円	保護者等寄附489,000円
屋上外縁部防水工事	5月	605,000円	
電話設備交換工事	5月	4,125,000円	リース対応
衣類乾燥機3台入替	6月	3,243,900円	
屋外トイレ扉修理	7月	261,000円	
自動回転釜入替	7月	440,000円	
業務用冷蔵庫入替	7月	652,300円	
LED改修工事	11月	1,463,200円	馬主協会補助930,000円
LED改修追加工事	11月	464,200円	
厨房ガス台修理	11月	198,000円	
浄化槽ポンプ交換	11月	360,000円	
非常用照明電池交換	11月	750,000円	
マイクロバス入替	12月	8,040,000円	遺贈寄附金6,500,000円
布団乾燥機2台入替	12月	2,865,500円	リース対応
手洗い用給湯器交換	1月	242,000円	 布団乾燥機2台を新調し、より快適になりました
生活寮水漏れ修理	1月	220,000円	
屋上給湯器修理	2月	759,000円	
生活寮改修工事	3月	2,030,000円	

### 園庭シーソー 修理



保護者の皆様をはじめ、多くの方々からのご支援により、子どもたちに人気の遊具を修理することができました。

### マイクロバス 入替



地域のからご遺贈を賜り、老朽化していたマイクロバスを新調致しました。

～いただいたご厚意を大切に、今後も子どもたちのために有効に活用させていただきます～



# 創作工房「アトリエ・オクト」活動報告

創作工房「アトリエ・オクト」の作品をご紹介します。

## 01 『天気』

※「令和7年 The Challenged Art 展 in ちば」メインビジュアル選抜作品

作：竹内晃汰（2023 年作）

技法：ミクストメディア



## 02 『無題』

作：國分蒼空&國分奏風（2025 作）

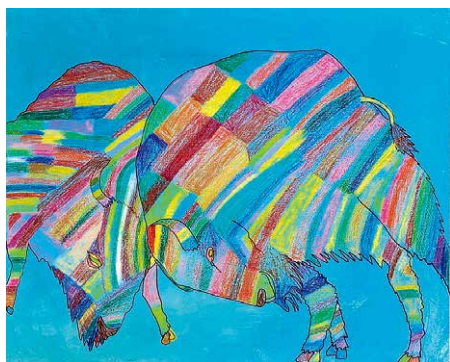
技法：アクリル絵の具、クレヨン



## 03 『バイソン』

作：S. N（2025 年作）

技法：アクリル絵の具、クーピー



## 春 会

ご支援の  
お願い

皆さまからお寄せいただいているご支援は、学園で暮らす子どもたちが日々を大切に重ね、その子らしい生活を送るために活用させていただいております。また、地域で暮らす子どもたちを対象とした「児童発達支援センター」や「放課後等デイサービス」においても、一人ひとりに丁寧に向き合う支援や環境づくりを続けていくために、皆さまの温かいお気持ちは欠かせない支えとなっています。

これまでに寄せていただいた温かいご厚意に心より感謝申し上げます。

今後も、子どもたち一人ひとりが自分らしく過ごせる毎日を守り育てていくため、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

お振込先

振込先口座番号：ゆうちょ銀行 〇二九（ゼロニキュウ）支店（029）当座 0118552

口座記号番号：00250-5-118552 番

口座名称（漢字）：社会福祉法人 春 会（シャカイフクシホウジン シュントウカイ）

口座名称（カナ）：フク シュントウカイ

- 税制上の優遇措置をご希望の方には、寄付申込書のご提出をお願いしております。お手数料をおかけしますが、控除を確実ににお受けいただくための手続きですので、ご理解・ご協力をお願いいたします。
- 振込の他、現金書留や学園事務所に直接のご持参でも結構です。皆様のあたたかいご支援をお願いします。

